

**2025 年度 一般社団法人日本老年看護学会
生涯学習支援研修（教員・医療保健専門職）の報告**

担当：陶山、出貝、高道、高見

開催日時：2025 年 8 月 30 日（土） 13 時 30 分～16 時

開催形態：web 開催（Zoom）

申込者数：81 名

参加者数：69 名（欠席者 12 名）

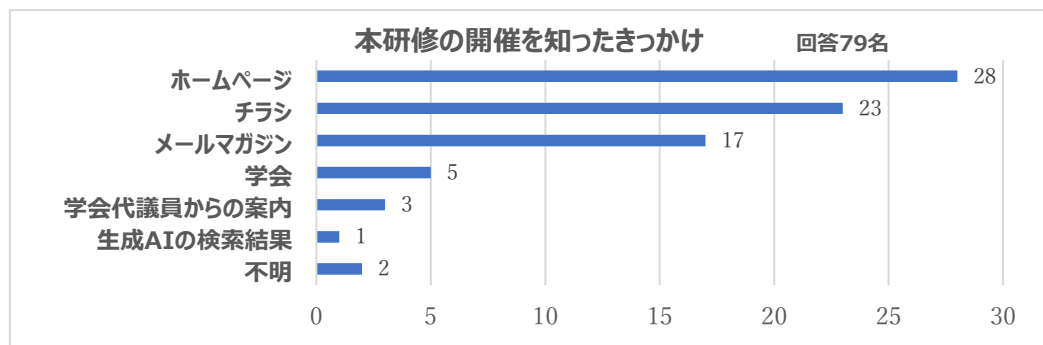
- ・会員 63 名、非会員 6 名
- ・大学 55 名、専門学校 6 名、病院 5 名、高齢者施設等 3 名

テーマ：教育機関における老年看護講義展開 up to date

プログラム内容

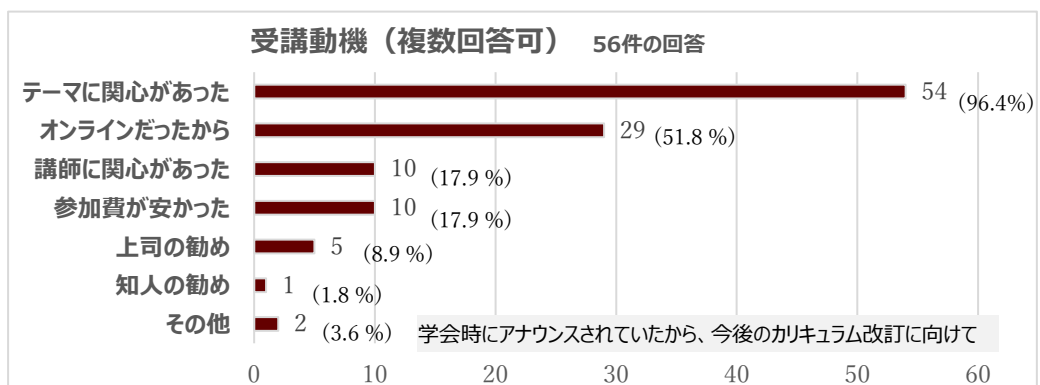
- 1 大学における老年看護の教育について（総論）
講師：湯浅美千代氏（日本老年看護学会理事長・順天堂大学 教授）
- 2 ”高齢者の理解”をどのように教授するか（講義紹介）
 - 1）老年看護学 教育・実践・研究への DX の活用
講師：伊東 美緒氏（関西医科大学 教授）
 - 2）高齢者参加型の演習プログラムの展開
講師：黒河内仙奈氏（神奈川県立保健福祉大学 准教授）
- 3 グループディスカッション・質疑応答

事前アンケート：本研修の開催を知ったきっかけ

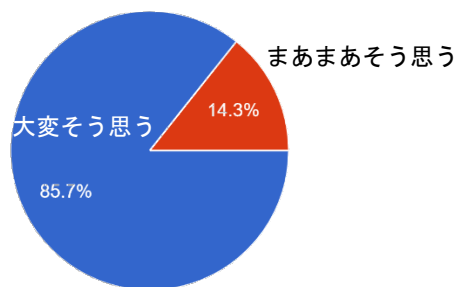


研修後アンケートの結果

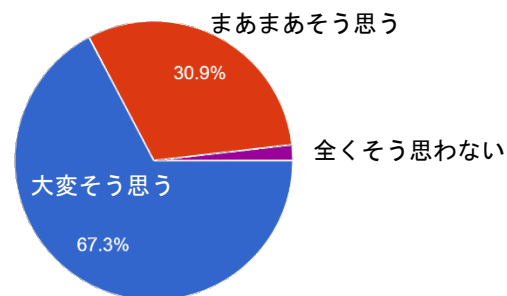
回答者数 56 名（回答率 81.2%） 学会員 94.6% 非会員 5.4%



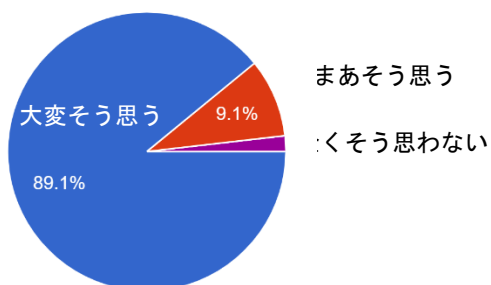
講義は分かりやすかったですか
56 件の回答



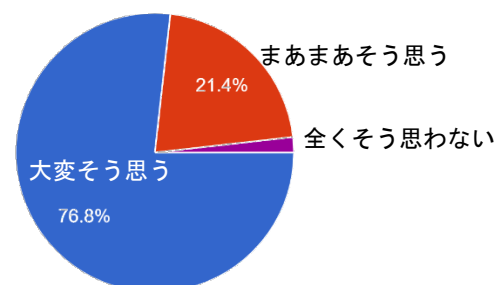
本日の研修に満足しましたか
55 件の回答



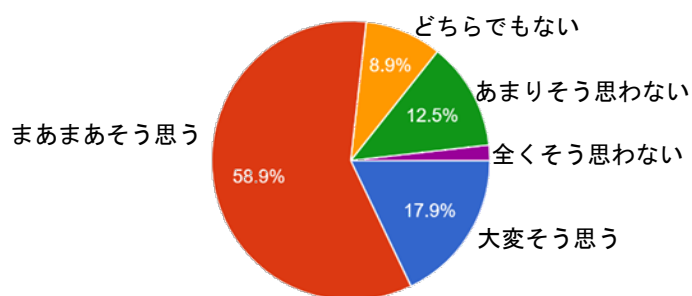
研修内容について興味関心をもてましたか
55 件の回答



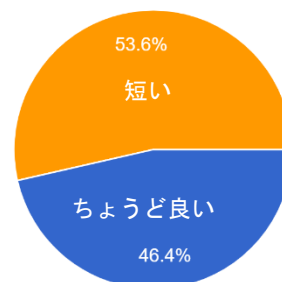
今後の教育活動の参考になりましたか
56 件の回答



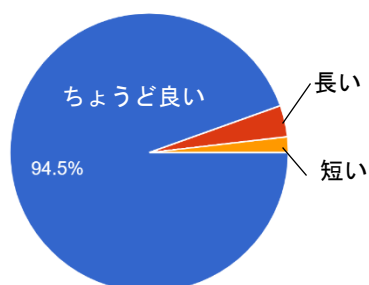
グループワークでは十分に意見交換ができましたか
56 件の回答



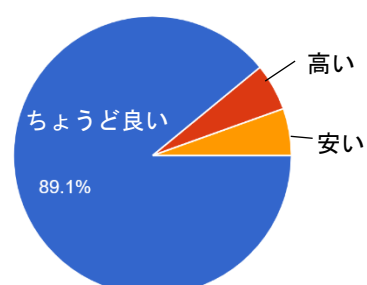
グループワーク時間
56 件の回答



講義時間
55 件の回答



研修参加費について
55 件の回答



Q. 本日の研修で印象に残ったことを教えてください

- ・実際の現場での教授方法について聞くことができ、参考になり良かった。
- ・講師の先生方の授業・演習への取り組みの工夫がとても具体的で参考になった。
- ・体験を通して学びを深める方法の具体がわかった。
- ・湯浅先生の総論、伊藤先生のユマニチュード×DX、黒河内先生の高齢者参加型演習、どれも素晴らしい内容だった。
- ・学生とともに教員も高齢者観は発達する、教員は自ら刺激を受ける必要があること。
- ・学生の高齢者観には教員の考え方が伝わるという湯浅先生の言葉に、身が引き締まる思い。自身の高齢者観、認知症観を見つめるとともに、学生の高齢者観の背景にあるものを見つめながら関わっていくことが必要だと感じた。
- ・高齢者看護を学生に教育する上で、「高齢者の力を捉える能力」を育くむことが重要であることを、3人の先生方の講義からの共通項として確認した。そのために、どのように高齢者を具体的にイメージするか、関わる上で重要な点（コミュニケーションの取り方、意思の確認を通して自律に作用すること）など、高齢者に主軸を置き、論文によるデータ示すなど、根拠を持って講義されているのだと感じた。
- ・最新の知見を学生に提示しながら教育する重要性、客観的な評価の方法や事前課題の提示内容、地域住民を巻き込んだ演習の展開など大変参考になった。
- ・臨床知で話をしてしまうこともあり、エビデンスをもって学生に教授する必要があると改めて考えた。根拠をもった援助の説明、理論を用いた看護学の教授を心掛けたい。
- ・学生の教育には丁寧な教育が必要で、お二人の先生の実践が印象に残った。iPadを活用し何度も実践する、実際に地域の方の協力を得て学ぶなど興味深い内容だった。
- ・高齢者の理解を深めるための工夫を色々知ることができた。あまり難しいことはできないが、今あるデバイスを利用しながら演習をよりアップデートしていきたいと思う。
- ・学生の課題として、学習した知識が演習や実践の場で生かされていないことが多いという点、また、事前に教えすぎない（学生自らが考えられるようにする）ことの2点が印象的だった。高齢者施設に勤務し非常勤講師や実習指導者として学部生の授業に携わっている立場にて、知識と実践が統合できる講義や支援方法を模索したい。学生が自ら考えられる声掛けやフィードバックも意識していきたい。
- ・コミュニケーションを可視化できること、教授できること。
- ・コミュニケーションに関する具体的な教授方法と評価方法が大変印象的だった。また、学生へのわかりやすい伝え方、達成感を感じ次の学習へ繋げる方法について理解できた。
- ・伊藤先生のコミュニケーション学習の教示方法、黒河内先生の演習の事前課題やグループメンバー数についての考え方、ディスカッションではSP会について印象に残った。
- ・事前講義（事前課題）と連動した演習の詳細を伺い、今後の自身の実習や演習に活かしていきたい。「事前課題の塩梅」が難しいが、学生の主体的な取り組みに重要だと思った。示しすぎず、でも、雲を掴むような漠然さはなく、学生が取り組みながら「わかってきた」と、事前課題と演習内容をリンクさせることが重要だと感じた。
- ・高齢者や認知症の方との関わりが少ない学生にどのように教授すればよいか、その悩みへのヒントをいただけたと思う。自分自身も高齢者の方の目を見れているか、触れているか、感謝の言葉を伝えられているか、考えることができた。学生にも伝えていきたい。

- ・高齢者とのコミュニケーションの教育をしていく上で、視線を合わせる、同意を得てから行動に移るなど方法論を伝えていたが、科学的な根拠をふまえた教授方法や、動画を撮り客観視する評価方法など自分にはない視点であったのでとても印象に残り、教授方法に取り入れたいと思った。動画を見て模倣し、繰り返すことでコミュニケーション能力が向上することも印象に残ったので、来年度の講義に向けて教材を作成しようと思った。
- ・対話型 AI やアプリについて、既に研究されていると知り、早く実用化されてほしい。
- ・模倣、iPad で撮影し振り返ること。高齢者との対面でのコミュニケーションの体験における課題、高齢者の力を活かすことを教育に活用すること。
- ・近時記憶の低下もみられる高齢者に、話しかけ続ける、目を合わせ続けるという伊藤先生の言葉が印象に残った。また、最初は教材動画の真似から初めて、iPad で振り返り学修する方法も取り入れてみたいと感じた。
- ・昨今のデジタル技術の活用に関する伊藤先生のお話は大変参考になった。認知症の方とのコミュニケーションを、実習に行く前に学内でどう習得するかはとても悩んでいたところなので、大変参考になった。
- ・黒河内先生の高齢者参加型演習が印象に残った。高齢者疑似体験だけでは、高齢者へのネガティブな印象が残り本当にこれでいいのか、ポジティブな印象への工夫は何かできないかと考えていたところなので、非常に学びとなった。本学に置き換えた場合、協力者のリクルート、各科目との調整等の課題もあるが、できるところを取り入れていきたい。
- ・黒河内先生の講義にありました実際の高齢者に学生がインタビューをしている点は、高齢者理解につながると思った。
- ・地域高齢者に演習に参加いただくことで、学生の学びのみならず、高齢者の社会参加となることは有益性が高いと感じた。／高齢者を理解していく上で、直接高齢者から学ぶ機会を他領域と作っていくことの重要性を再認識した。次年度の講義に活かしていきたい。
- ・模擬患者の依頼方法や学生にフィードバックする方法・示し方について印象に残った。
- ・地域の高齢者に先生になっていただくこと。
- ・コミュニケーションや対象者へのインタビュー方法については老年看護というより看護の基礎であるため、期待していた老年看護講義展開の独自性が全く理解できなかった。

Q. 今後、研修として取り上げてほしいテーマ、あるいは老年看護学会へのご要望があれば具体的に記入ください。

- ・今後も教育に関する研修を継続してほしい(教育方法、先駆的取り組み、その他交流会など)(同様 5 件)。
- ・高齢者看護の根幹をなす高齢者看護観や根拠に基づき教授いただける研修。
- ・高齢者を理解すること／コンピテンシー基盤型教育／シラバス、授業展開の工夫
- ・授業カリキュラム。修学年数内における構成の工夫など各学校での取り組みについて／他領域との連携／老年看護に関連する理論の教授方法について／方法論や演習の講義方法について、他大学の状況も知れるようなグループワーク。
- ・新しい認知症観、これからの認知症に関する教育内容、教育技法
- ・地域高齢者や認知症高齢者を学生指導に関わっていただくための工夫や仕掛け、倫理的配慮などについて、具体的かつ多くの事例を示して欲しい。

- ・ 老年看護の実習・演習に関するテーマ／参加型実習の進め方／具体的な実習展開について、意見交換できる時間があると嬉しい。／実習指導者との連携に関する内容や、学生指導（学生の評価と評価のフィードバックについて）の内容。／
- ・ 理解が深まる看護技術の演習の組み立て方／OSCE、シミュレーション演習
- ・ 高齢者のフィジカルアセスメントについて
- ・ DX の活用、シミュレーションを取り入れた演習など（同様 2 件）
- ・ 身体拘束最小化チームの実際（ラウンド方法、記録方法、データ収集方法）
- ・ 老年看護学領域における産学連携の実際・手法／研究方法
- ・ 社会人教育の場において、知識と実践をどのように結び付けていくか。
- ・ 事例検討やカンファレンス等をする側のファシリテーター研修、実践報告書の書き方

＜日本老年看護学会への要望＞

- ・ 日本老年看護学会として、これからの老年看護教育に向けた方針の独自性、特に在宅看護や成人看護とは異なる教育哲学を学会として示してほしい。介護施設等に従事する看護職のあり方、医療機関とは異なる高齢者の暮らしの場での看護教育をした方が、老年看護の理念は伝えやすいと感じる。
- ・ 大学のスケジュールや講義、演習期間が決まっており、毎回、学会への参加が難しいです。少し時期をずらしていただける年があると参加できるので、検討していただけると嬉しいです。
- ・ 今回の研修には関係ありませんが、学術誌の査読者の選出要件を示して欲しい。ご自身が学術誌に掲載された経験があると思えないような指摘をされました。学会上層部ですが、査読者の選出も一部の仲間内でされているのではないかと疑問を感じます。

Q. 本日の研修全体に対するご意見・ご感想をお聞かせください。

- ・ 老年看護教育に従事しておられる参加者のさまざまな教育実践と学生の学びについても知ることができ、大変有意義は研修だった（同様 7 件）。
- ・ 今後も教員対象に研修会の開催をしていただけると非常に嬉しい。病院や施設でご活躍の高齢者ケアに関わる方たちと意見交換、交流できる機会が持てると嬉しい（同様 2）。
- ・ 進行の先生の進め方が素晴らしかった。
- ・ 学生はいろいろな学びを得て、看護力を磨いて入職して来るのだなと思った。老年を教授するのは看護学生だけではなく、現役の看護職に対しても必要であると思った
- ・ 積極的に研修に参加していきたいと思った。オンラインでの研修を今後もお願いしたい。
- ・ 私は、学生に老年看護、特に認知症の高齢者の看護を好きになってもらいたく、看護専門学校で教員になった。しかし、教員になって日が浅く、価値観が違うことの多い今の学生への教育の難しさに日々悩み、自分の授業のあり方で学生にどうやったら興味を持ってもらえるかを模索している。可能であれば、看護専門学校の教員の取り組みについても聴かせていただきたい。また是非ともこのような研修会の開催をお願いする。
- ・ 高齢者看護の教育に関する刺激を受けることができたので、学生の成長を促す刺激の仕掛け作りを考えたい。
- ・ コアカリのことを検討している時期でもあり、他大学で取り組まれている教授法を学ぶ機会になり、大変勉強になった。また、湯浅先生のお話にあった通り、高齢者の幸福・安

寧に向けた看護を実践する人材として成長できるように刺激するにはどのように関わればよいのか、常に思考しながら9月からスタートする実習でも活かして参りたい。

- ・カリキュラム改正にむけて具体的な演習内容に関する意見交換
- ・新カリに向けて、老年看護の構築は必須であると考えている。他領域との立場を分けてさらに共同して学生の教育をしていくことは大切だと考えている。
- ・講演内でも話しが出ていたように、老年看護学領域だけで高齢者看護を伝えているわけではないので、各大学がどのようにカリキュラムを組み立ての工夫があり、その中での老年の位置づけが見えるような回があってもと思う。
- ・講義は興味深く聴かせていただいた。自身の大学で一部は活用できそうだが、お金が非常にかかることや教員数の不足などもあると実際問題難しいと思いつた。
- ・DXや地域の高齢者の方との演習を組みたいと思っているが、環境的に難しいこともあり、検討中のままになっていた。少しずつ準備をして実現できるようにしたい。他の大学の方とも意見交換出来てよかった。
- ・多くの看護師は、病気で弱った高齢者を目の前にしたときに、その人が本来持つ力や生きてきた背景を創造（想像か？）できないように思う。さまざまな工夫を凝らし、実際に体験し、参加することで高齢者のマイナスな側面だけでなく、強みやもてる力、考え方等を知る。そうした経験をして看護師になる人が増えることは、これからの後期高齢者、超高齢者が多い時代に明るい兆しを感じた。私も、自己研鑽しながら高齢者理解を促す方法を模索し、伝えていきたいと思う。
- ・ディスカッションの時間が短く、人数が多かったため、感想を述べるだけで終わった印象（同様5件）。／自己紹介後、意見が少し出たところで終了しもったいなく感じた。
- ・Zoom研修では、BORで共有が恒例だが、講義で一旦終了（中締め）とし、GW参加希望者が残り、時間を少し長めにとるのもありかもしれない。あるいは、講義は少なめに、グループで今やっている工夫や内容を共有し、今後の教育について「創出」する回をやってもよいのかなと思う。
- ・ディスカッションでは、テーマを提示していただけるとよかった。また、ファシリテーターはいない旨、教えておいていただくと戸惑いなく始められると思った（同様2件）。
- ・期待していた研修ではなかった。この2つの研修内容が特に役に立つとも感じず、むしろ自大学の教育方法が良いと確信が持てたことは良かった。学会なのですから、老年看護学教育の独自性を示してください。少なくとも今日の研修内容は老年看護学としての独自性はまったく伝わらなかった。

【まとめ】

生涯学習支援委員会としては初めての教員および医療機関・福祉施設教育職向け研修であったが、内容としては概ね好評であり、ニーズも高いことが分かった。ディスカッション（グループワーク）については、運営方法を検討する必要があるが、テーマを吟味しつつ継続的な開催を計画してもよいのではないかと考える。